

【原 著】

## ESDを視点とした家庭科授業開発研究

－平成28年度岡山大学教養教育科目「教育の現代的課題（生活と環境）」  
の実践と検討－

佐藤 園 佐藤 大介 篠原 陽子

Development of Home Economics Classes from an ESD Perspective  
Examining the Practice of the 2018 Liberal Arts Education Subject “Contemporary Issues in Education  
(Lifestyle and Environment)” at Okayama University

Sono SATOH, Daisuke SATOH, Yoko SHINOHARA

2018

岡山大学教師教育開発センター紀要 第8号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education  
and Development, Okayama University, Vol.8, March 2018

## ESDを視点とした家庭科授業開発研究

-平成28年度岡山大学教養教育科目「教育の現代的課題(生活と環境)」の実践と検討-

佐藤 園<sup>\*1</sup> 佐藤 大介<sup>\*2</sup> 篠原 陽子<sup>\*1</sup>

平成28年以降、わが国では、これから子どもたちが生きる予測できない未来に対応するための学校教育の方向性として、グローバル化や知識基盤社会で生きる力とその育成のためのアクティブ・ラーニングの導入が示された。2014年にスーパーグローバル大学の指定を受けた岡山大学においても、知識基盤社会やグローバル化社会を支える高度な専門知識と知的な素養を備えた人材育成のための教育改革が行われた。本研究は、この改革の中で、教養教育として教育学部に求められた「現代の教育的課題」の授業科目として、アクティブ・ラーニングを核とする“ESDを視点とした家庭科Project”を基盤として開発した「生活と環境」とその実践結果について検討した。

キーワード：ESD, 家庭科授業開発, 大学教養教育, アクティブ・ラーニング

※1 岡山大学大学院教育学研究科

※2 くらしき作陽大学子ども教育学部

## I はじめに-問題の所在と研究の目的-

## 1 グローバル化・知識基盤社会で生きる力の育成を目指すわが国の教育改革

## (1) 学校教育

平成28年12月、中央教育審議会答申では、これから生きる予測できない未対応するための学校教育の方向性が示された。具体的には、前教育改革で示された社会像「知識基盤社会」の認識を継承し、グローバル化等の加速的に変化する社会で生きるために必要な「競争」と「協同」の力が必要であり、子どもがこれらを身に付けるためには、より科学的な知識(概念・理論)・技術の獲得と「それを用いてどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という知識・技能の活用により、自ら考え判断し表現する力とそれを育成するためのアクティブ・ラーニングの重要性が特筆された。

これを受け平成29年6月に公示された新学習指導要領解説では、家庭科において、現行と同様に「グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することができる資質・能力の育成」が求められた。

## (2) 大学教育

2014年にスーパーグローバル大学の指定を受けた岡山大学では、知識基盤社会やグローバル化社会を支える高度な専門知識と知的な素養を備えた人材育成のための教育改革として、アクティブ・ラーニングや留学を促進する6分4学期制が平成28年度から導入され、「世界に通用する人材養成」が目指されている。

## 2 本研究の目的

本研究は、前述した岡山大学の教育改革の一環として行われた教養教育改革において、新たに教育学部に求められた「現代の教育的課題」の授業科目として、家庭科教育学と家庭科内容学（被服学）を担当している佐藤と篠原が開発した“ESDを視点とした家庭科授業”の中からアクティブ・ラーニングを核とする2種のProject<sup>1)</sup><sup>2)</sup><sup>3)</sup>を基盤として構築した授業「生活と環境」の平成28年度の実践と結果を報告し、この授業を通して受講学生が何を獲得したのかを検討する。

## II 「教育の現代的課題(生活と環境)」の概要

シラバスに掲載した授業の概要・学習目標は、以下の通りである。

### 1 授業の概要

持続可能な社会の構築に向けて、「自分⇄環境」の視点から、(家庭)生活を再考する。関連する家政学の研究を紹介し、Project I 「環境と衣服の着方」ならびにProject II 「Flour Baby Project」(以下、FBP)のアクティブ・ラーニングを通して、持続可能な生活の創造を探求し、人間開発をめざす。

### 2 学習目標

家政学の基本的な考え方を理解し、探求学習を通して(家庭)生活に関する科学的知識を構築し、持続可能な生活を創造する生活者としてのものの見方・考え方を獲得する。

## III 「生活と環境」の実践と結果

「生活と環境」の授業は、3学期(10月3日～11月28日)月曜日5・6時間目(14時～16時10分)に、一般教育棟(Project I)と教育学部本館家政教育演習室(Project II)で行った。以下、実践の概要を、授業で使用したパワーポイントと学生が作成した資料等で説明したい。

### 1 1時間目：イントロダクション

本授業は、実験と実習を含むため、受講者数24名の制限を設けていた。受講希望者から抽選が行われ、受講登録をした学生は24名であったが、1時間目の授業に出席した学生は11名であった。学生との合意のもと性別・学部を考慮し、表1に示す4グループを編成した後に、本授業の目的と概要説明を行った。(資料1・PP1～8)

### 2 2～8時間目：Project I 「環境と衣服の着方」

2時間目からProject Iに入った。最初に、教

表1 グループ編成

班	性別	学部	学年
1	男	薬	1
	女	教育	1
	男	経済	1
2	男	理	4
	女	法	1
	男	経済	1
3	男	経済	1
	男	工学	4
	女	農	1
4	男	法	1
	女	経済	1

師が「環境と衣服の着方」の概要を説明した後に、グループでデジタル紫外線強度計を用いて「自身が環境と衣服の着方」を考えるための実験の計画を立案させた。(資料2・PP9～18)

3・4時間目には、実験材料となる衣服を学生各自が持ちより、計画に従いグループ別に戸外で実験を行った(資料2・PP19①②③)。実験結果をグループで確認し、各自で分析・考察を行い、レポートにまとめることを次時までの課題とした。

5・6時間目には、各自で行った分析・考察をグループで共有し、プレゼンテーション用のパワーポイント等を作成した。(資料2・PP20～23)

7・8時間目には、グループ毎に10分間でプレゼンテーションと質疑・応答を行った。(資料2・PP19④⑤⑥、PP24～PP26)

最後に、教師が4グループの結果をまとめ、実験と考察の問題点を指摘し、補足説明を行いProject Iを終了した。(資料2・PP27～28)

### 3 9～15時間目：Project II「FBP」

9・10時間目に教師がFBPの概要を説明し、FBP実践を記録するBaby Journal (BJ)を学生に渡し(資料4)、実践のための準備事項・物を告げた。(資料3・PP29～43)

11・12時間目に、学生は、自分の出生時と同じ重さのFlour Baby (FB)を作成し、親子写真を撮った後(資料3・PP44～45)、FBを抱いて校舎内外散歩し、BJの質問に答えた後に、自分のFBを教師に預けた。(資料4・pp.1～8)

その週の金曜日の放課後、学生は各自のFBを教師から受け取り自宅に連れて帰り、土・日曜日とFBと共に生活した。(資料4・pp.9～12)

月曜日の13・14時間目の授業にFBを抱いて出席し、テーマ1「大学生としての今の自分が、なぜここに存在しているのか」とテーマ2「親になる子どもを持つとは」に関してディスカッションを行い、レポート課題「自分が親になる子どもを持つということと我が国の少子化問題について」を確認した。(資料4・pp.13～17)

15時間目には、各自で作成したレポートに基づきディスカッションを行った。最後に、実践した2つのプロジェクトの意義について確認し、全授業を終了した。(資料4・pp.17～18)

## IV 「生活と環境」の評価と今後の課題

### 1 「生活と環境」の評価

以上の授業の結果に関しては、学生が毎授業終了時に課題等を書いて提出したシャトルカード、Project I・IIで作成したレポート、15時間の授業をまとめたプロジェクトレポート及び大学で実施している授業評価アンケートを分析した。

#### (1) 2つのプロジェクトで学生が何を獲得したのか

授業の初回と最終回のシャトルカードの記述内容は、表2に示す通りである。

シャトルカードの記述からは、以下の点を学生が獲得したと考えられた。

#### ①プロジェクト1：環境と衣服の着方

今までネットやテレビなどでしか受け取れなかった「紫外線の問題とその対策」に

ついて、自分達が着用している衣服を用いて実際に実験し、データとして得ることで、新しい発見をすると共に、「何が問題で、それに対して何を自分達ですることができなのか」という解決策を考え、理解することができた。

## ②プロジェクト2：FBP

実際に自分が生まれた時の重さのFBを世話することで、親になること、子どもを持つということが責任感と使命感を伴うものであることを体験を通して深く考えることができた。日本で問題となっている「子どもを産み育てる」ということにも興味を沸き、自分が将来、子どもを持った時には、この経験を活かしていきたい。

## ③2つのプロジェクトを通して

自分が知っているようで、物事の本質が見えていないことがあるということが分かった。自分の意識や考えが変わった。将来いろいろな意思決定をする上で、この2つのプロジェクトはきっと何等かの影響を与えようと思う。

(2) なぜ、学生はプロジェクトを通して、自分の見方・考え方を変えることができたのか

(1) の要因を「授業評価アンケート」とチャトルカードの記述から考えると、以下の3点に起因していると考えられた。

第一は、「自分達が実際に実験・実践を行い、結果をまとめて発表した」ことである。第二は、「学部や学年も異なる急造のグループで、コミュニケーションをとりながら協同活動によって、実験やプレゼンを行うことができ、自信になった」ことであり、「大学に入って、みんなで考える機会が余りなかったので、グループやクラス全体で話し合いをすることが楽しく、自分の考えを見つめなおすきっかけとなった」ことが第三の要因として読み取れた。

(3) 学生の家庭科に対する考え方はどのように変わったのか

チャトルカードの記述から、2つのプロジェクトを通して、学生の家庭科に対する考え方には次のような変化がみられた。

初回のチャトルカードの記述からは、家庭科は、「裁縫・料理などの作業を通して日常生活を送る知識・技術を身に付ける教科」「座学より実践の多い教科」「友達と協力する必要がある教科」「大人になって生活する上で必要なことを学ぶ教科」であるという、考え方がみられた。

それらの考え方は、最終回のチャトルカードでは、家庭科は、「社会問題・環境問題など現代社会で必要な内容を取り扱う教科」「日常の問題を心で感じ自分で考えることが主体の教科」「自分がどう生きていくかビジョンを広げるための教科」「理想の生き方をするためには、どのような力や環境が必要なのかを学ぶ教科」に変わっていた。

## 2 今後の課題

以上から、本授業を受講した学生は、現在、地球レベルで解決が求められている「環境問題」「少子化」をテーマとした2つのプロジェクトで、大学に入ってほとんど行

表2 学生のシヤトルカードの記述内容（第1回目・第15回目授業終了時）

学 生	家庭科に対するイメージ		2つのプロジェクトを終えて
	授業前	授業後	
1	裁縫や料理等を通して日常生活に役立つ術や知識などを身に付けるもの	家庭科は高校の時内職するための授業というイメージがなかったのですが、大学生になってから取り組んでみると日常での身近な発見や今までで考えたことのないような気づきなどがあった。家庭科こそ数学や英語などより、より実践的な生活に直結して重要になる科目だと思います。またこの科目は自分で考えることが主体だと思うので、もっと学校教育で重視されるべきだと思います。	衣服の実験では、自分たちが普段気にも留めないような紫外線について考えてみることにし、今話題となっている地球温暖化による紫外線の増加に対して自分達ができる身近な努力を提案でき、それを今後の生活にすぐにも実践してみようと思ったので、手ごころにできて自分の生活をより良くしてくれる大変良い実験だと思いました。今回、FBPを通しての少子化問題との関連についてグループワークやクラス全体の話を聞いてみて、自分は割りと物理的要因が少子化の原因だと思っているので、自己意思決定や、もし子どもを持つとした際の準備、大変さなどの精神面も大きく作用しているというのを感じることができ、自分の意思決定が周りに対してどんな影響を与えるかわかりやすくなり、考えながら行動に移すことが大切なのではないかと思いました。このFBPは少子化や子育てについて多角的に学ぶことができ、本当に良い経験になったと思います。また、もし自分が子どもを持つ時は、この経験を活かして支えあっていけたらいいなと思いました。
2	自分自身と人、装置の理、物の視点から家庭生活、衣生活、食生活生活などの領域ごとに科学的な知識を形成するために学ぶ教科	家庭科は児童・生徒が科学的な認識を形成するだけでなく、物事の本質を理解することができると感じることができると思っています。	2つのプロジェクトに取り組んで、自分が知っているように、物事の本質が保たれていないことはいくつもあるということが分かった。プロジェクト1はこの授業を受講しない紫外線から身を守る衣服の着方一生でできていなかったと思う。プロジェクト2は、親になることを、子どもを持つということが責任感と使命をもつものであることが体験を通して実感できた。
3	料理や裁縫などの日々の生活に役立つことを学ぶ科目	高校までは家庭科といえは調理実習という考えで普段の授業は真面目に聞いていませんでした。しかし、家庭科で教わることの大切さを知り、自分がかたがた知りました。	紫外線対策の検証方法について「明度の違いによる紫外線透過率の違い」を実験し発表しました。何かを準備して発表するというのがあまり得意でなかったのですが、良い経験となりました。とても良い経験ができました。今回のFBPを通して子育てに対する考えが変わりました。日本の将来を考えても、子どもを産み育てるということは大切なことだと思いました。みんなが考えられる機会が大学に入ってから余りなかったのでも、とても楽しかったです。
4	医学よりも実証の多い教科で、調理実習・エプロン作り等の作業を通して、生きる上で必要なものの作り方を学んだり、それに関する知識を得るための教科	「家庭科」とは、自分が今後どう生きていくか、そのビジョンを広げるための科目、かつ、理想の生き方をするために、どのようなかや環境が必要なのかを学ぶ科目。	紫外線の実験では、今まではネットやテレビなどでしか受け取れなかった「紫外線対策」についての情報を、実際に実験して、データとして得ることで、新しい発見（白より黒の方が良いなど）を得ることができた。FBPでは、自分の生活と向き合っている人形を扱うことで、親になるのはどういふことなのか、すこしイメージできるようなようになった。また、子育てに興味があった。子育てをすることは一人では絶対にできないことであり、育てる人を支えるための準備づくりが大切である。
5	家の事に興味を持たせる教科。友達と協力する必要がある教科。	家庭科は、日常の問題を心で感じ考えたい科目だと思う。	紫外線の実験やFBPなど、世間で大きく取り上げられている問題に対する活動をしてきたが、自分では小さな事だと思っていた。たまたま、実験には大きな効果があるということがわかった。つまり、自分でできることから始めても十分効果はあるとわかった。
6	育児と家事の能力と知識を養う教科	家庭科では自分達がどのような環境で生活している、これから暮らしては何かが必要か、また、これまでどのようにして自分自身は生きてきたかを学ぶ教科だと思います。	衣服による紫外線対策では普段の生活にわかかわかる問題で実験を行い、まとめることでどのようなことか問題で、何か解決策になるかを理解できた。FBPでは、子育てを主体的に体験することで、子どもを持つとはどのようなことを深く考えた。
7	家庭科は、自分がこれから社会人として生活していくうえで一番役に立つ知識を学ぶことができる教科だと思う。	私は中学校の時ずっと家庭科の先生になりたいと思っていて、それは自分達の生活に一番役に立つし楽しいと思っていたから。この2つのプロジェクトを通して、家庭科はただ役に立つ質問というわけではなく、人間を形成したり人生の決定に大きく関わるものだと思う。	2つのプロジェクトを通して自分の意識が変わった。紫外線対策は一年中するべきであることと子育てについてである。将来いろいろな意思決定する上で、この2つのプロジェクトはきっと何らかの影響を与えて思う。とても貴重な体験ができたと思う。
8	料理や裁縫など生活に必要な技術・知識を身に付ける（家事）	今思う家庭科とは、小中高までの「家庭」に関することというよりも、家庭やその環境の問題をとらえ、考えていくものだと思う。	紫外線とFBPという今までの家庭科では扱ってなかったことを行ったので戸惑いはあったが、考えを深めるような機会になつたと感じる。
9	料理や裁縫などの履やかな日常生活を送る手段を学ぶ教科だと思います。	初期の印象とは少し変わって、社会問題や環境問題に即した教科だと思います。単に料理や裁縫をしているのではなく、より現代社会にあった内容を取り扱っているのだという印象を受けました。	「環境と衣服の着方」これまで考えたこともなかった衣服の素材と紫外線について調べることで、衣服の役割について考えることができました。
10	家庭科は、大人になって生活を送る上で重要なことを学ぶ教科	家庭科は幅広い人が生きるとして重要なことを学ぶ教科だと思える。昔は女性だけが受けるものであったらしいが、ありえないと思う。今回調べてみて必ず必要な教科であると思つた。	「FBP」実験に3kgの重さのあるペイビーを家に持ち帰ってお世話することで、育児の大変さや大切さについて知ることができた。協同活動で子どもとコミュニケーションをとる、実験ができたことは非常に良かった。急遽の版でこのようにプレゼンできたのは自信になった。衣服のような扱いやすいテーマを中心に中高ではやってきたが、今回のFBPを通して、家庭科の奥深さを知ることができた。特にFBPは考えれば考えれば思えるほど得るものがあった。

う機会のなかった個人及びグループでの実験・実習に取り組み、その結果をグループやクラス全体で話し合っていくというアクティブ・ラーニングによって、2つの問題に対する理解を深め、自身の見方・考え方を変えていくことが可能となっていた。

さらに、この学びを通して、自身の今後の生き方を、周囲との関係性で捉え、自らで意思決定し、行動していく必要があることに気付くことができたと考えられた。

授業評価アンケートにおいて、学生は「生活と環境」の授業の満足度を4.3/5.0と評価していた。今後は、本授業で学生の評価したアクティブ・ラーニングを大切にしつつ、家政学・家庭科教育の視点から「現代の教育問題」を探求できる新たなプロジェクトを開発していくことが課題となる。

#### 参考・引用文献

- 1) 篠原・久保・信清・佐藤 (2012) 「ESD(持続発展教育)を視点とした家庭科教育内容開発研究 I - 小学校家庭科における布の熱移動特性に関する実験の開発」、日本教科教育学会誌、第34巻、第4号、pp. 9-18.
- 2) Syogo HARADA & Sono SATO (2011), Practice and examination of the "Flour Baby Project" for the middle school compulsory subject "Technology and Home Economics (Home Economics field)":Development of a Home Economics Study that attempts self-understanding by "Analyzing the relations between a child and one's self", INTERNATIONAL JOURNAL OF CURRICULUM DEVELOPMENT AND PRACTICE, Vol. 13, No. 1, pp. 13-30
- 3) 河原浩子・平田美智子・原田省吾・佐藤ゆかり・佐藤園(2014) 「中学校家庭科におけるFlour Baby Project学習による生徒の心理傾向(自尊感情・人間関係)の変化-家庭科学習評価への心理測定尺度適用の試み-」、日本教科教育学会誌、第37巻、第1号、pp. 31-41

#### 註

本授業は、国立大学改革強化推進補助金2015年度岡山大学カリキュラム開発経費を得て開発・実践したものである。

**資料1**

**教養教育**  
**プロジェクトI・II**

**教育の現代的課題(生活と環境)**  
2016年3学期(D41教室)

担当 教育学研究科 佐藤 園、篠原 陽子

**教員紹介**

プロジェクトI担当  
○佐藤 園(教育学研究科 家政教育講座)stano@  
(専門)家庭科教育  
将来はベトナムショップの店員になる♪

プロジェクトII担当  
○篠原 陽子(教育学研究科 家政教育講座)sw20@  
(専門)家庭科  
将来はWRCに参戦めとして日々練習する♪

**自己紹介**

○氏名: 所属学部  
○この講義を選んだ理由

**I. 教育の現代的課題**

1. 教育政策で示された教育の現代的課題

中核競争(分業) 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の  
学習指導要領の改訂について(平成18年)

「競争」 ↓ 「共存・協力」

21C「知識基盤社会」 ↓

OECD: 主要能力(キーコンピテンシー)

平成10年我が国学校教育: 「生きる力」

▶ 3

**2. 教育課程としてのESD**

中核競争(平成18年) 21C「知識基盤社会」

「共存・協力」

「分業・協力が  
神髄可能な発展」

「開かれた国」の育成  
(自己・他者、社会、自然・環境)

学校教育の社会的使命→未来の日本・世界を支える人材育成→ESDの形成

改訂・充実「家庭や環境に配慮したライフスタイルの確立」

▶ 4

科学教育の目的・目標

各教科 道徳 特別活動 総合的な学習の時間 外国語活動

ねらい: 科学的な理解の形成

理・理・科学・時間に基づく法則・理論の系統的学習

家庭 生活 図画 算数 社会 音楽 図画工作 体育

**家庭学** Science Education Social Studies 各教科固有の科学・学習

ねらい: 家庭生活に関する科学的な理解の形成

理・理・家庭学に基づく法則理論の系統的学習 → 家庭科を学ぶ意義 (独自性)

▶ 5

**3. 家庭科におけるESD**

(1) ESDとは?

「将来世代のニーズを満たす能力を築こうと、今、現在世代のニーズを満たすよう持続可能な開発」のための教育

行動変革 ↓ 変遷 ↓ 変遷 ↓

個人個人が生活の中で意識、行動

過去 → 未来

世界の経済・社会・環境  
私たちの生活

↑ 教育 ↓  
価値観の多様性

意識決定のあり方の転換

(2) 家庭科におけるESD

▶ 6

家庭学 家庭(家庭)生活の営み

研究分野 家庭心理学 心理学 教育学 社会学 生活学 食文化学 環境学 住居学 服装学 食物学

人 → 環境 → 人間性

「開かれた国」

「開かれた国」 → 法則・理論の系統的構築 → 一環 域(Sコープ)

家庭科: 持続可能な社会の構築を牽引した重要決定

自己と他者との関係性において生活を営む上で生じた課題に列して  
家庭学の各研究分野で解明された法則・理論に基づき、  
より科学的な意思決定を行い、その解決を考えさせていくこと

▶ 7

Project1: 環境と交通の関わり

環境学 交通学 社会学 心理学 物理学 化学 生物学 地理学 歴史学 言語学 芸術学 法学 政治学 経済学 経営学 農学 工学 医学 薬学 法学 政治学 経済学 経営学 農学 工学 医学 薬学 法学 政治学 経済学 経営学 農学 工学 医学 薬学

Project2: Flour Baby Project

家庭学 社会学 心理学 教育学 生活学 図画 算数 社会 音楽 図画工作 体育

環境学 交通学 社会学 心理学 物理学 化学 生物学 地理学 歴史学 言語学 芸術学 法学 政治学 経済学 経営学 農学 工学 医学 薬学 法学 政治学 経済学 経営学 農学 工学 医学 薬学

▶ 8

**資料2**

**プロジェクトI「環境と衣服の着方」**



▶ 9



あなたがどのくらい着るべきかを重視しているのか？  
これまで衣服の着用で困ったことや問題はありますか？

環境の変化に応じた衣服の着用が必要

- 地球温暖化・環境破壊・環境汚染・自然災害など  
⇒ 快適、安全、持続性のある衣服の着方とは
- 人体への影響—「紫外線の問題」  
(1)なぜ紫外線が問題なのか？  
(2)どうして起こったのか？  
(3)あなたはそのような対策を考えるか？  
(4)あなたの紫外線対策の効果は？

▶ 10

紫外線に関する情報提供機関

- I WHO 健康影響指標 指標「UVインデックス」
- II 気象庁 紫外線の性質、紫外線情報  
紫外線の種類、天気や季節による違い
- III 環境省 紫外線対策

これからもこのままの衣生活を続けませんか？  
変化する環境に応じて適切な衣服を選択し、  
着用しなければならぬ。

そのためには ……

▶ 11

あなたの衣生活における新しい視点の導入

▶ SD-LEED

SD(Sustainable Development: 持続可能な開発)とは  
「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たす開発」(国連ブルントラント宣言, 1987)  
「人間を育む生態系が有する能力の範囲内で暮らしながら、人間の生活の質を向上させること」(UN/UNEP/WWF, 1981)

ESD(Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)とは  
そのための教育がESDである。環境的視点、経済的視点、社会的視点、文化文化的視点から、より深い生活や文化を次世代に引き継いでいくことのできる人間を育むことを目指す。持続可能な未来や社会の構築のために行動できる人の育成を目的とする。

これから  
どのように衣生活を営みたいですか？

▶ 12

紫外線は有用であるが、過剰な場合は有害にもなる。紫外線の人体への影響は、急性、慢性の健康影響が明らかになった。

```

    graph TD
      A[WHO「UVインデックス」を作成し、紫外線強度を分かりやすく指標化] --> B[「UVインデックス」を活用した紫外線対策を推奨]
      B --> C[気象庁 この指標に基づき、紫外線情報を提供]
      C --> D[環境省「紫外線環境保健マニュアル2008」を刊行し、具体的な対策を解説]
    
```

▶ 13

Table 1 UVインデックスに応じた紫外線対策 (環境省 2008)

11+	極端に強い	日中の外出は出来るだけ控える。必ず長袖シャツ、日焼け止め、帽子を利用しよう。
8-10	非常に強い	日中は出来るだけ日陰を利用しよう。出来るだけ長袖シャツ、日焼け止め、帽子を利用しよう。
6-7	強い	帽子を利用して下さい。
3-5	中程度	安心して戸外で過ごせます。
1-2	弱い	

衣服はいろいろな種類がある。どの様な衣服を、どのように着れば良いのか？

▶ 14

あなたが衣服による紫外線対策を提案する!!

10月3日 ①課題設定  
その知識が本当に正しいか？(科学的根拠)  
その知識は役立つのか？(課題解決)

②解決方法の決定  
どのように説明するのか？(科学的手法)  
実験計画書作成

10月17日 ③実験  
10月24日 ④各自実験結果のまとめグループでまとめ  
10月31日 ⑤プレゼン準備→プレゼンテーション

▶ 15

プロジェクト I: 個人レポートファイルの作成

- ▶ ①表紙…(授業科目名、所属、学生番号、名前)
- ▶ ②目次
- ▶ ③目的
- ▶ ④方法
- ▶ ⑤結果
- ▶ ⑥考察
- ▶ ⑦結論…(プロジェクト I を通して何が分かったか)
- ▶ ⑧文献
- ▶ ⑨付録…(配布プリント、プレゼンpptなど)
- ▶ ⑩プロジェクト I に取り組んだ感想

▶ 16

評価規準\*

達成度	課題の特定と取組	課題の理解	資料・情報の取り入れ方	視点・見方
0	特定しているが、課題の本質的な理解がなされていない。	レベルに達していない。	資料が整理されていない。	自分自身の視点から見る。
1-2	課題の本質的な理解がなされている。	課題の本質的な理解がなされている。	資料が整理されている。	自分自身の視点から見る。
3-4	課題の本質的な理解がなされている。	課題の本質的な理解がなされている。	資料が整理されている。	自分自身の視点から見る。
5	課題の本質的な理解がなされている。	課題の本質的な理解がなされている。	資料が整理されている。	自分自身の視点から見る。

▶ 17 ワークシート①「TOP TOK」におけるプレゼンテーション評価規準より

あなたが衣服による紫外線対策を提案する!!

○あなたの考える紫外線対策

○どのように検証するか？

実験項目 ( )  
実験方法 ( )  
実験条件 ( )

▶ 18 ワークシート②

被服の紫外線透過量の測定  
UVカット加工衣料の場合

①素材: シャツアタラス ②素材: ルーナーネットシャツ

	L* <sub>a</sub> a*	充減率	UV透過率%
白	98.97 2.89 4.38	0.906	3.1
黒	50.46 74.95 5.88	0.408	2.4

	L* <sub>a</sub> a*	充減率	UV透過率%
白	98.29 1.98 0.02	0.900	3.1
黒	12.38 65.98 0.61	0.188	1.3

▶ 21

あなたが衣服による紫外線対策を提案する!!

○結果  
定量実験の結果をどのように表すか、どのような結果が得られたのか説明する。

○考察  
なぜそのような結果になったのか? 結果を解釈する。

○結論  
得られた結論は?

▶ 20

被服の紫外線透過量の測定  
UVカット加工衣料の場合

①素材: シャツアタラス ②素材: ルーナーネットシャツ

	L* <sub>a</sub> a*	充減率	UV透過率%
白	98.97 2.89 4.38	0.906	3.1
黒	50.46 74.95 5.88	0.408	2.4

	L* <sub>a</sub> a*	充減率	UV透過率%
白	98.29 1.98 0.02	0.900	3.1
黒	12.38 65.98 0.61	0.188	1.3

▶ 21

結果(1)  
UVラベルによる衣服の紫外線透過の測定例

表 UVラベルの紫外線透過率

Fig. 8. UV labels, Summit, Slumpy, Blank, UV-A 346, MW/cm<sup>2</sup>

▶ 22

プレゼンテーション計画書の作成

1. テーマの設定理由  
2. あなたの生活にどのように関連するのか?  
3. プレゼンテーションの意図(何を伝えたいのか?)  
4. 全体のアウトライン

※A4用紙1枚に簡潔書き

プレゼンテーション  
10月31日 2時間目  
1時間目 10分+質疑応答 5分(4組) プロシエクトIまとめ  
-他の班のヒアリング(ワークシート記入) 感想記入(ワークシート)

プレゼン資料の提出(配布用)  
10月31日のプレゼン資料(Power Point)を 10月28日(金)16:00までに  
メールのメールアドレスに添付ファイルで送ること(当日全員に配布します)  
※間に合わない場合は、当日、13期印刷して持参する。

▶ 23 ワークシート

4種のカラーセンター(標準)

紫外線による健康被害

紫外線による健康被害

紫外線による健康被害

紫外線による健康被害

▶ 24

結果2

表 UVラベルの紫外線透過率

Fig. 9. UV labels, Summit, Slumpy, Blank, UV-A 346, MW/cm<sup>2</sup>

▶ 25

プロジェクト I : プレゼンテーション

( 班 : 所属学部 2016.10.31 氏名 )

班	1班	2班	3班	4班
Power Pointが分かるか	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5
Power Pointが分かるか	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5
資料がわかるか	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5
資料がわかるか	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5
資料がわかるか	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5
資料がわかるか	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5	1-2,3-4,5

▶ 26 ワークシート1まででいい! 2.中まででいい! 3.8まででいい! 4.中までいい! 5.でいい!

プロジェクト I : まとめ  
「衣服による紫外線対策」  
衣服の紫外線遮蔽性能を知る

表2 紫外線対策と衣服の色に関する専門的考察

1. 色による影響	2. 衣類の繊維素材	3. 日焼け止めとの併用
1. 紫外線による影響	1. 紫外線による影響	1. 紫外線による影響
2. 紫外線による影響	2. 紫外線による影響	2. 紫外線による影響
3. 紫外線による影響	3. 紫外線による影響	3. 紫外線による影響
4. 紫外線による影響	4. 紫外線による影響	4. 紫外線による影響

▶ 27

### 衣服による紫外線対策

▶ (1) 衣服には紫外線を遮断する効果がある  
▶ (2) 衣服を構成する布の性状によって、紫外線の透過率(透過量)は異なる  
▶ (3) 衣服の紫外線透過率は季節、場所、天気によって異なる  
▶ (4) 衣服の紫外線透過率の特徴を理解し、UVインデックスに応じた紫外線対策が大切

11+	綿織に強い
8-10	綿織に弱い
6-7	麻織に強い
3-5	麻織に弱い
1-2	絹織に弱い

紫外線による健康被害を軽減するための対策として、紫外線透過率の低い衣類を着用することが効果的であるとされています。また、紫外線透過率の高い衣類を着用する場合は、紫外線防止剤の塗布や、紫外線防止フィルムを貼るなどの対策が有効です。

### 自己評価

自分で立てた目標の達成度を評価し、なぜそう評価するのか理由を示す。

A 達成度

B 理由

▶ 28



このイラストは、学生が学習活動に取り組んでいる様子を描いています。机にはノートパソコン、教科書、地球儀が並び、学生は集中して作業しています。

### 資料3

#### 家庭科授業開発研究

一家庭科保育者の導入授業としての Flour Baby Project の実践と検討



岡山大学教育学部家庭科教育課程

▶ 29

### I 大学生に対するFBPの実績

1. 米国のミドルスクールにおけるFBPの問題点

① 米国の小学校から中学校までの子どもたちには、手洗いや歯磨きなどの基本的な生活習慣が身につけられていないことが多く見られる。また、食生活や睡眠習慣も改善の余地がある。

② 日本と比べて、米国の子どもたちは、自己管理能力や自主性を高めるための機会が少ない。

③ 米国の子どもたちは、多様な文化や価値観の中で育ち、自己表現やコミュニケーション能力を高める機会が多い。

④ 米国の子どもたちは、自己管理能力や自主性を高めるための機会が少ない。

▶ 30

### I Flour Baby (FB) との背景

1. 1980年代 米国のミドルスクールにおける家庭科授業への Flour Baby Project の導入  
1980年代 社会問題三世代の経緯 → 家庭科に導入

2. 1989年 米田カンザス州のミドルスクールでのFBとの背景  
Overland Trial Middle School: Flour Baby Project → 生徒・保護者が協力して実践する家庭科のプロジェクト

① 小動物の毛ん坊 (7歳の子供) の外傷を防ぐ  
② 身体能力の向上を促す  
③ 生活習慣の改善を促す  
④ 食生活や睡眠習慣の改善を促す

▶ 31

### 2. 大学生に対するFBPの導入と実施方法

① 米国のOTMSでのFBPの試み

② FBPの目的

③ FBPの導入と実施方法

④ FBPの導入と実施方法

▶ 33

### ① 大学生が自分のFBPを語る

① 1日目の実践の様子

② 2日目の実践の様子

③ 3日目の実践の様子

④ 4日目の実践の様子

⑤ 5日目の実践の様子

▶ 34

### B-1の質問項目 (1日)

① 米国のミドルスクールにおけるFBPの問題点

② 米国の小学校から中学校までの子どもたちには、手洗いや歯磨きなどの基本的な生活習慣が身につけられていないことが多く見られる。

③ 日本と比べて、米国の子どもたちは、自己管理能力や自主性を高めるための機会が少ない。

④ 米国の子どもたちは、多様な文化や価値観の中で育ち、自己表現やコミュニケーション能力を高める機会が多い。

⑤ 米国の子どもたちは、自己管理能力や自主性を高めるための機会が少ない。

▶ 35

### B-1の質問項目 (2日)

① 米国のミドルスクールにおけるFBPの問題点

② 米国の小学校から中学校までの子どもたちには、手洗いや歯磨きなどの基本的な生活習慣が身につけられていないことが多く見られる。

③ 日本と比べて、米国の子どもたちは、自己管理能力や自主性を高めるための機会が少ない。

④ 米国の子どもたちは、多様な文化や価値観の中で育ち、自己表現やコミュニケーション能力を高める機会が多い。

⑤ 米国の子どもたちは、自己管理能力や自主性を高めるための機会が少ない。

▶ 36

### 3. FBPの実態

実施期間	2016年10月～12月	2017年6月～7月
対象者	岡山大学大学院教育学研究科「中高等学校教育専攻」1年次生(男1名、女4名) 大学院教育学研究科「加藤修平」1年次生(男1名、女4名) 岡山大学教育学部「生活文化学」1年次生(男1名、女1名) 18名(男3名、女10名)	岡山大学教育学部「生活文化学」1年次生(男1名、女1名) 18名(男3名、女10名)



▶ 37

### 4. FBP実施結果の検討 一 学生が記述した自己FBP終了後の学生の感想 (1)FBPの真実性

FBPの真実性  
 ①FBPの真実性  
 ②FBPの真実性  
 ③FBPの真実性

小論文214題から作成された「自分のFBPの真実性」の感想文をまとめた。FBPを通じて、自分自身を客観的に見つめ直すことができた。また、自分自身を客観的に見つめ直すことができた。また、自分自身を客観的に見つめ直すことができた。

▶ 38

### (2)FBPの題材としての真実性

①子どもに対する責任  
 ②自分の人生の目標  
 ③自分の人生の目標  
 ④自分の人生の目標

⑤子どもに対する責任は、自分一人では果たせません。一世代や二世代の人の協力が必要です。

▶ 39

### 中・高等学校 家庭科保育学習へのFBPの展開的導入

子育てを始めたことの大変さ  
 子育ては自分一人ではできない  
 子育てを始めたことの大変さ  
 子育ては自分一人ではできない

▶ 40

### 中学校における家庭・産科保育学習の導入に係るFBPの展開的展開

実施日付	第3期間	第4期間	第5期間	第6期間
対象者	第3学年学生 2～5週間	第3学年学生 2～5週間	第3学年学生 2～5週間	第3学年学生 2～5週間
FBPの展開	自分の人生の目標	自分の人生の目標	自分の人生の目標	自分の人生の目標

▶ 41

### 家庭科保育学習の導入に係るFBPの展開

中学校  
 高等学校  
 中・高等学校 家庭科保育学習へのFBPの展開

▶ 42

### FBPの展開

本日、みなさんに意見決定してもらいたいこと  
 FBP ①7日(水) or ②土日(2日)バージョン

▶ 43

### FBPの展開

11月14日(月)の展開予定  
 ①Baby Journal の1頁「FBP保育学習」を印刷し、サインする  
 ②Baby Journal の1頁「FBP保育学習」を印刷し、サインする

▶ 44

### FBPの展開

以下の図が、自分の生活と環境の関係を、自分自身で描いてください。



▶ 45

**資料 4**

# Flour Baby Project

## 2016

学部 \_\_\_\_\_ 学生番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

- 1 -

これからあなたは、フラワーベビーの“親”になります。ベビーを本家の赤ちゃんだと勘違いして世話をしてください。この活動を通して、自分の成長と健康や周囲の人々との関わりについて考えてみましょう。

### フラワーベビー養育ルール

ベビーの“親”になるにあたり、以下のルールを必ず守ってください。

- あなたがベビーの世話をすること。友だちとベビーを遊ばせて世話をせたり育児放棄をしないといけない。
- 親のベビーに似せても、まったくひい目にあわせたりするなどの偽装をしてはいけない。
- 休日やベビーと共に家に寄り世話をすること。その際、できる限りいろいろな場所に出かけては、たくさんの人に会わせてあげること。
- 自分ではどうしても世話が出来ないと場合は、必ずベビーシッターに子育てを頼むこと。
- ベビーシッターを必ずつけること。シッターには、不審もあつて、正しく見守らせること。

このルールを守るという約束として、自分の名前をサインしてください

サイン: \_\_\_\_\_

- 2 -

### プロジェクトの予定

授業 1 - 2	月 日 ( )
① フラワーベビー養育ルールをサインする ② 家で協力して自分のフラワーベビーをつくる ③ 各自フラワーベビーの顔を書く ④ 各自ベビーのパーツを作る ⑤ ベビーと一緒に動物を散歩する ⑥ 各自ベビーシッターを頼む ⑦ ベビーシッターと遊ぶ ⑧ ベビーを「ハラショー養育所」に預ける	
春假 期間	月 日 ( ) - 日 ( )
金 ① 「ハラショー養育所」(調理実習)にベビーを連れに行く 土 ② ベビーシッターを頼む 日 ③ ベビーと一緒に遊ぶ 月 ④ ベビーの世話をすること。手が足りない場合はベビーを頼む 火 ⑤ 手が足りない場合は他の人にベビーを預けてもらう 水 ⑥ 自分が作ったベビーシッターを頼む 木 ⑦ 自分が作ったベビーシッターを頼む 金 ⑧ 自分が作ったベビーシッターを頼む 土 ⑨ 自分が作ったベビーシッターを頼む 日 ⑩ ベビーと一緒に遊ぶ	
授業 3 - 4	月 日 ( )
① 親子を預ける ② 「ハラショー養育所」にベビーを連れに行く ③ ベビーと一緒に動物を散歩する ④ ベビーシッターを頼む ⑤ ベビーシッターと遊ぶ ⑥ ベビーと一緒に遊ぶ	

- 3 -

### フラワーベビーの誕生

誰のあんなで遊びましょう!

- ① ビックパルソンの裏が自分が見えなくなるように、小まめに確認する
- ② 目を閉じておく。手や足を動かさず、呼吸は続ける
- ③ 鼻の中にあたりにくくひらきをつくり、ゆるく鼻を閉じられる
- ④ メンチングシートにマジックで顔を描く。顔の部分を切り取り、鼻の位置に貼る。鼻の位置がずれないように注意する

お名前を書いたら、ベビーと一緒に子育てをしましょう!


- 4 -

### ベビーのプロフィール

名前	(印刷)
生年月日	平成20年 月 日
性別	男 / 女
体重	kg

私のベビー

写真を貼りまわす



- 5 -

### ベビージャーナル


① あなたのベビーは誰の子ですか? 女の子ですか?

② ねば、あなたは、ベビーにその名前を付けたのですか?

③ あなたのベビーにどんな名前を付けたのですか?

④ どうしてその名前を付けたのですか?

⑤ これからベビーの世話をしていく中で、どのような困難が、あなたやベビーに起こるとおもうか?



- 6 -

### ベビーと散歩

施設に連れて行ってベビーと一緒に散歩しよう

(1) 施設内

トイレ	休憩室	受付	調理実習室	講義室	
ダンス室	図書室	第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8 第9 第10 第11 第12 第13 第14 第15 第16 第17 第18 第19 第20 第21 第22 第23 第24 第25 第26 第27 第28 第29 第30 第31 第32 第33 第34 第35 第36 第37 第38 第39 第40 第41 第42 第43 第44 第45 第46 第47 第48 第49 第50 第51 第52 第53 第54 第55 第56 第57 第58 第59 第60 第61 第62 第63 第64 第65 第66 第67 第68 第69 第70 第71 第72 第73 第74 第75 第76 第77 第78 第79 第80 第81 第82 第83 第84 第85 第86 第87 第88 第89 第90 第91 第92 第93 第94 第95 第96 第97 第98 第99 第100	第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8 第9 第10 第11 第12 第13 第14 第15 第16 第17 第18 第19 第20 第21 第22 第23 第24 第25 第26 第27 第28 第29 第30 第31 第32 第33 第34 第35 第36 第37 第38 第39 第40 第41 第42 第43 第44 第45 第46 第47 第48 第49 第50 第51 第52 第53 第54 第55 第56 第57 第58 第59 第60 第61 第62 第63 第64 第65 第66 第67 第68 第69 第70 第71 第72 第73 第74 第75 第76 第77 第78 第79 第80 第81 第82 第83 第84 第85 第86 第87 第88 第89 第90 第91 第92 第93 第94 第95 第96 第97 第98 第99 第100	第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8 第9 第10 第11 第12 第13 第14 第15 第16 第17 第18 第19 第20 第21 第22 第23 第24 第25 第26 第27 第28 第29 第30 第31 第32 第33 第34 第35 第36 第37 第38 第39 第40 第41 第42 第43 第44 第45 第46 第47 第48 第49 第50 第51 第52 第53 第54 第55 第56 第57 第58 第59 第60 第61 第62 第63 第64 第65 第66 第67 第68 第69 第70 第71 第72 第73 第74 第75 第76 第77 第78 第79 第80 第81 第82 第83 第84 第85 第86 第87 第88 第89 第90 第91 第92 第93 第94 第95 第96 第97 第98 第99 第100	第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8 第9 第10 第11 第12 第13 第14 第15 第16 第17 第18 第19 第20 第21 第22 第23 第24 第25 第26 第27 第28 第29 第30 第31 第32 第33 第34 第35 第36 第37 第38 第39 第40 第41 第42 第43 第44 第45 第46 第47 第48 第49 第50 第51 第52 第53 第54 第55 第56 第57 第58 第59 第60 第61 第62 第63 第64 第65 第66 第67 第68 第69 第70 第71 第72 第73 第74 第75 第76 第77 第78 第79 第80 第81 第82 第83 第84 第85 第86 第87 第88 第89 第90 第91 第92 第93 第94 第95 第96 第97 第98 第99 第100

(2) 施設外

トイレ	会議室	第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8 第9 第10 第11 第12 第13 第14 第15 第16 第17 第18 第19 第20 第21 第22 第23 第24 第25 第26 第27 第28 第29 第30 第31 第32 第33 第34 第35 第36 第37 第38 第39 第40 第41 第42 第43 第44 第45 第46 第47 第48 第49 第50 第51 第52 第53 第54 第55 第56 第57 第58 第59 第60 第61 第62 第63 第64 第65 第66 第67 第68 第69 第70 第71 第72 第73 第74 第75 第76 第77 第78 第79 第80 第81 第82 第83 第84 第85 第86 第87 第88 第89 第90 第91 第92 第93 第94 第95 第96 第97 第98 第99 第100	第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8 第9 第10 第11 第12 第13 第14 第15 第16 第17 第18 第19 第20 第21 第22 第23 第24 第25 第26 第27 第28 第29 第30 第31 第32 第33 第34 第35 第36 第37 第38 第39 第40 第41 第42 第43 第44 第45 第46 第47 第48 第49 第50 第51 第52 第53 第54 第55 第56 第57 第58 第59 第60 第61 第62 第63 第64 第65 第66 第67 第68 第69 第70 第71 第72 第73 第74 第75 第76 第77 第78 第79 第80 第81 第82 第83 第84 第85 第86 第87 第88 第89 第90 第91 第92 第93 第94 第95 第96 第97 第98 第99 第100	第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8 第9 第10 第11 第12 第13 第14 第15 第16 第17 第18 第19 第20 第21 第22 第23 第24 第25 第26 第27 第28 第29 第30 第31 第32 第33 第34 第35 第36 第37 第38 第39 第40 第41 第42 第43 第44 第45 第46 第47 第48 第49 第50 第51 第52 第53 第54 第55 第56 第57 第58 第59 第60 第61 第62 第63 第64 第65 第66 第67 第68 第69 第70 第71 第72 第73 第74 第75 第76 第77 第78 第79 第80 第81 第82 第83 第84 第85 第86 第87 第88 第89 第90 第91 第92 第93 第94 第95 第96 第97 第98 第99 第100	第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8 第9 第10 第11 第12 第13 第14 第15 第16 第17 第18 第19 第20 第21 第22 第23 第24 第25 第26 第27 第28 第29 第30 第31 第32 第33 第34 第35 第36 第37 第38 第39 第40 第41 第42 第43 第44 第45 第46 第47 第48 第49 第50 第51 第52 第53 第54 第55 第56 第57 第58 第59 第60 第61 第62 第63 第64 第65 第66 第67 第68 第69 第70 第71 第72 第73 第74 第75 第76 第77 第78 第79 第80 第81 第82 第83 第84 第85 第86 第87 第88 第89 第90 第91 第92 第93 第94 第95 第96 第97 第98 第99 第100
-----	-----	---	---	---	---

スタート 調理実習室 上机に座り替えてお尻が外側に向く

- ① トイレ 廊下に入って手を洗う
- ② 廊下 廊下に入る
- ③ 2階廊下 2階に上がる
- ④ 廊下 1階に下がる
- ⑤ 廊下 受付まで戻ってくる
- ⑥ 調理実習室 ストップに座り替えてお尻に入る

施設の構図の裏面に貼る貼り紙をよく読んで確認しよう

- 7 -

### ベビージャーナル

① ベビーと一緒に散歩して、楽しかった場所や大変だった場所はどんな場所ですか?

② なぜそのような感じになったのか、おもしろかったことについて書いてください

③ これからしばらくの間ベビーと食うことができません、どんな気持ちですか?

④ それはなぜですか?

⑤ 今日の世話をしてみて考えたこと、感じたこと、疑問に思ったこと等を書いて下さい

- 8 -

### ベビージャーナル

① あなたの今日のベビーとどんな風に過ごしましたか? 一緒に行った所や、一緒にしたことを書いて下さい

② ベビーと一緒に遊んで、楽しかったことや感動したことを、楽しかったことや嬉しかったことを書いて下さい

③ 今日、子育てにどんな人を通して下さい

④ 誰に、どんなアドバイスをもらいましたか?

⑤ どうして子育てを始めたのですか?

⑥ 「フラワーベビー」の親であることの良い点と悪い点を挙げて下さい

⑦ 「フラワーベビー」を育てるために、自分にはどのような知識が足りていないと感じますか?

⑧ 子育てを通して

- 9 -



---

Title : Development of Home Economics Classes from an ESD Perspective  
Subtitle : Examining the Practice of the 2018 Liberal Arts Education  
Subject “Contemporary Issues in Education (Lifestyle and Environment)” at  
Okayama University

Author : Sono SATOH<sup>※1</sup>, Daisuke SATOH<sup>※2</sup>, Yoko SHINOHARA<sup>※1</sup>

(Abstracts) Since 2016, active learning has been implemented in Japan as part of a direction for school education that can respond to the unpredictable future in store for children, in order to develop the ability to live in a globalized, knowledge-based society. Okayama University, which has been designated as a Super Global University in 2014, is engaged in education reform to develop people with the advanced, specialized knowledge as well as mental fundamentals to support a knowledge-based, global society. This study examines the results of the “lifestyle and environment” which were developed as foundation for a “home economics project from an ESD standpoint,” one that is central to active learning in the “Contemporary Issues in Education” course, required for liberal arts education in the Faculty of Education.

Keywords : ESD, development of home economics classes, liberal arts education, active learnings

※1 Graduate School of Education, Okayama University

※2 Faculty of Childhood Education, Kurashiki Sakuyo University

---